

犬の心理栄養学



博多ドッグス
HakataDogs

特別編



The Association of Promoting Home-prepared Dog Meal

初めまして、一般社団法人 犬の食養生推進協会 代表理事の三苦恵理子（みとまえりこ）です。
ぺろっと元気ごはんを監修させて頂いておりますので、もしかしたら、初めましてではない方もいらっしゃるかもしれませんね。フードをころころ変えている内にぺろっと元気ごはんの流れ着いたという方もいらっしゃると思います。

犬と関わる仕事を始めて17年目、食事に関する質問も数えきれないほど受けてきています。それこそパピーの食事量から老犬の食事、フードも手作り食も幅広く。

その中で健康にも関わらず**飼い主さんを悩ませる問題NO.1**と言っても過言ではない

「ドッグフード食べない問題」完食せずに残す、遊びながら食べる、イヤイヤ食べている雰囲気を醸し出す。これは飼い主さんの悩みの種です。

飼い主さんは「この子が食べてくれない」と言いますが日本初で唯一の犬の心理栄養学®を考案した人間からすれば「飼い主さんが食べない様にしつけた」と思う訳です。

「え？そんな事した覚えがない」と皆さん言われますが犬はそう受け取ってしまった。

むしろ「お母さんがそれが好きって褒めてくれたじゃない」と思っています。

ドッグフードをころころ変えるのはデメリットしかない！という事を声を大にして言いたい！

そういう思いを込めてぺろっと元気ごはんの博多ドッグスさんプレゼンツ

「犬の心理栄養学®特別編」どうぞお楽しみ下さい。

さて「食いつきが悪い」「初めはよく食べるけどしばらくしたら食べなくなる」という話をよく聞きます。ドッグフードをころころ変える飼い主さんは実はとても多いです。

特に持病などもない場合とりあえず愛犬が食べる物をあげるようにしている飼い主さんは多いのではないのでしょうか？今、この記事を読んでいる方の中にも「何がいけないのか分からない？」という方もいらっしゃるかもしれません。

食事だけを切り取ってみると愛犬が食べてくれるフードと言うのはとても大切かもしれませんが、食べる物を探してころころ変え続ける行為そのものが「愛犬が食事を食べなくなるようにしている」という事をご存知ですか？よく思い出して下さい。

お家に愛犬を迎えた直後は良くフードを食べていませんでしたか？だんだん成長するにしたがって食べなくなったはずです。

ドキッとされた方もいるかもしれませんね。今まで愛犬の為に良かれとっていろんなフードを試したのが実は食べないように育てている、、、とてもショックなことだと思います。

ですが、これは本当です！！

愛犬が少しでも食べなくなると、次から次へとドッグフードを探し、繰り返す事をドッグフードジプシーと言います。なぜ食べなくなるのか？実際にご相談を受けたケースを交えて、犬の心理を交えた犬目線でストーリー風にご説明していきたいと思ひます。

～愛犬が飼い主さんをドッグフードジプシーにさせた実話～(Tプードル・サクラちゃん)

もうすぐ1歳になるプードルのサクラちゃんと一緒に暮らしていた飼い主さん。

家に来たすぐは「ごはん今までちゃんともらっていたの？」と思う程勢いよく食べていました。

しかしお家に来て1カ月ぐらいたったことからすぐに完食する事が減り、食事の最中に飼い主さんが動いたら食事をやめて、くっついて回ったり、少しだけ残すという事が目立つように。

「ちゃんにごはん食べて」と促すと一応完食する事が多かったのもまだ仔犬だからと思っていたそうです。

→この時、プードルのサクラちゃんはこう思っていました。

「すぐ全部食べるとお母さんはお皿を片付けるだけ、、、」

「ゴハンを食べないようにするとお母さんは私を見てくれる！」

当然、飼い主さんの気持ちとは裏腹にサクラちゃんはちょっと残し作戦を開始するのです。

飼い主さんとのコミュニケーションが欲しいサクラちゃんはしっかり作戦を実行。

ちょっとだけ残すというのが常習化してしまいます。

当然飼い主さんはそんなサクラちゃんの作戦を知る由もなく、

何とか全部食べて欲しいと思った飼い主さんはササミの茹でた物やお野菜をトッピングしてみます。そうするとペロリ！！完食するので一安心したそうです。

→その時サクラちゃん是这样思っていました。

「お母さんが私をかまってくれるからちょっとだけ残したら、おいしいものくれた！」

そう、何とか食べさせようとした飼い主さんの行為はサクラちゃん（犬）目線では

「ちょっと残すといい事ある」とほめて貰った。「かまってくれて、美味しいご褒美までもらえるなんて最高！」とこの作戦を維持していく方向性を固めるのです。

そんな勘違いが起こっているなんて知らない飼い主さんはホッとします。「やっとこれでゴハン完食してくれる」と。

でも、サクラちゃんの作戦は第2段階へと駒を進めるのです。

最初からトッピングしないと食べないようになりひどい時はフードは食べずトッピングのみ食べるという事が起こり始めます。

→その時サクラちゃんは「もっと褒められるにはどうしたらいいのかしら？」と知恵を絞ります。

フードを少し残したら、かまってもらえて美味しい物も出てきた過去の経験から

「最近では初めからご褒美が付いてくる事もあるしこのご褒美だけ食べればいいのかしら」と。

実際に、フードの食べる量が減って可哀想だからトッピングの量を増やしていた飼い主さん、またここに1つ誤解が生れるのでした。

飼い主さんは「あら、このフードに飽きたのかしら？ そういえば同じフードしか買ったことないから飽きたのかもね」と思い、新しいフードを買いに。

「さあ、サクラちゃん違うフードにしてみたけどどう？」とサクラちゃんに出すと今まで食べなかったのがウソのようにペロっと完食したではありませんか！「やっぱりずっと同じフードだったのがいけなかったのね」と飼い主さんは思うのです。それが、サクラちゃんの新たな作戦だとも知らずに・・・

→その時サクラちゃんは「え？こんなに褒めてもらえるのね！お母さんは構ってくれるし、なんかいつもと違う味のフードも出てくるし最高～～！」とこの作戦の継続を固く誓うのでした。

飼い主さんはそうとも知らず、新しいフードをよく食べてくれるのがうれしくて褒めます「サクラちゃん全部食べて偉いね！」と。トッピングが無くても食べてくれるのに気を良くしていたのもつかの間、またトッピングをしないと食べない様になってしまいます。それが少し心配になって犬友に相談した結果「これよく食べるよ」というフードを渡り歩くようになるのです。いつの間にか飼い主さんは「なんでサクラちゃんはこんなに食が細いのだろう」と悩んでしまいます。でも「世の中にはいろんなフードがあるし、まあそのうちサクラちゃんが大好きなフード見つかるよ」と何とかなると。ネットで食いつきが良い評価のフード、動物病院においてあるサンプルを試す。それがダメならトッピングを替えるというのでやり過ごしていきます。

でも、飼い主さんは知らないのです。健康な時はやり過ごした代償を支払う時がくるのを・・・

老後、大きな病気をして食べられなくなる時が来ます。

その時に、ころころとフードを変え続けた飼い主さんたちは代償を支払わなくてはなりません。

病気で痩せていく愛犬をみて、あの手この手で食べさせようとしても食べてくれない。

若い時に食べなかったのと違って「食べたい気持ちはあるけど、食べられない」のです。

食べないと痩せる。

痩せると抵抗力が下がるので、動物病院からはもっと食べさせて下さいと言われる。

「分かってるけど、食べないんです」と話したら「ササミでも茹でたのをあげてみて下さい」と言われます。でも、それは当の昔にサクラちゃんに使った方法で、サクラちゃんには目新しい食べ物なんかではなく、食欲のスイッチは入らない・・・若い頃にコロコロとフードを変え続けていた飼い主さん達は心を痛めてしまうのです。

では、どうすればよかったのでしょうか？

① 時間制限を設ける。食事を提供して10分たっても食べなければ皿をさげる。

→気が散って食事に集中しない時にはサッと皿を下げます。

「え？まだ食べてないに！」と何回か10分経っても食べていない場合お皿を下げると食事を下げられては困ると食事に集中するようになります。

② これしか出ません！出せません！という強い意志を持つ。

→サクラちゃんのお母さんの様に、食べないと何かしらトッピングをしたがる方はとても多いです。「食べないと痩せちゃうから」と心配されている方がほとんど。

ですが、その時に愛犬を見せてもらおうと標準体型～肥満体型の事がほとんど。食べなくてガリガリという子はほとんど見かけません。なぜか？先ほどのサクラちゃんの考えを読んでもらえば何となく察していただけましたか？死なない程度にちゃんと食べているんです。

人も犬もおいそれと自らの命を危険にさらす行為はしません。死なない程度に食べているだけで、フードを残せばお母さんは喜んで新しくって、美味しい物が出てくるからそれを食べればいいと。

1日の食事回数をきちんと飼い主さんが守る→朝・晩の2回の食事であれば朝食べなければ次に食事を出すのは晩でその間に間食をあげないという注意点を守ってとは飼い主さんが「やり通す」という意思を見せる事が今までに生まれた飼い主さんとサクラちゃんの誤解を解く方法です。

正直この問題はドッグトレーナーでも介入が難しい飼いさんと愛犬の問題の1つです。根気比べに

なりますが、応援していますので頑張ってくださいね！

人と犬の感じ方の違いお分かりいただけましたか？

今まで通り食べる物を探してあげ続けるもよし、ここでひと踏ん張りするのもよし。私どもはひと踏ん張りする！と決めた飼い主さんを誠心誠意サポートさせて頂きたいと思っています。

人と犬との些細な考え方、物のとらえ方の違いを見逃すことによって後々大きなずれが生じるのは

しつけの問題も食事の問題もとてもよく似ています。

先ほどのサクラちゃんのように、食が細い犬。飼い主さんの多くは食が細いのは食事の問題だと思うので犬の食事の専門家に相談します。食事目線だとフードの種類の変更、トッピングや手作り食にしてみるというアドバイスが多く、目新しい時はよく食べるものの結果として犬はもっと食が細くなり飼い主さんは食事に常に頭を悩ませる事になりやすいのです。

実はこのケースでは、しつけ目線での運動強度や生活ルールの変更をすることこそ、根本解決への一歩です。

ダイエットについても、人はかさましをして量を増やして満足感を栄養とします。

犬の場合それをするとより空腹感を感じるようになります。

いまだにごはんをいつでも食べられるように置きっぱなしにしているお家もあります。

それをすると、犬はどんどん食への欲求が減り食が細いように育ってしまいます。

犬の「食事」と「しつけ」、この2つに密接な関連性があり、切っても切り離せないもの。

日本初で唯一の犬の心を満たせる栄養学として「犬の心理栄養学®」として体系化しました。

今回の特別編は犬の心理栄養学®入門編を一部編成を変えて公開しております。

犬の心を満たすと、飼い主さんとの生活の質が上がります。

飼い主さんの生活の質が上がれば自然と犬の生活の質も上がります。

犬の寿命は15年ほどと言われています。その15年をより濃厚なものに愛犬が天国へ旅立ったあととても楽しい時間を過ごしたねと言ってもらえるように活動しています。

一般社団法人 犬の食養生推進協会 代表理事 三苦恵理子（みとまえりこ）

一般社団法人 犬の食養生推進協会 <https://www.ahom.jp/>

日本初で唯一の犬の心を満たす栄養学 https://peraichi.com/landing_pages/view/ahom6

公式ブログ <https://e-mitoma.com/>

インスタグラム a h o m 2 0 1 6